

Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community.

# K I N O P R E S S

# 木野通信

KYOTO SEIKA UNIVERSITY

This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus events, personnel changes, student news, and perspectives on campus life.

京都精華大学 企画室  
京都市左京区岩倉木野町137  
TEL (075) 702-5201

1991年10月15日  
京都精華大学発行

第16号

## 二十一世紀の大学

### 総合の時代へ

学長 笠原 芳光

二十一世紀はどうか。百年を単位として世紀と称し、歴史を区分するのは人為的なことに過ぎない。だが人間は自らつくりだしたもので逆規定される存在である。だから二十一世紀という節目にむけて期待がこもり、憂慮も生ずる。

思想の問題として考えてみよう。過去を顧みることが未来を予測することになる。十九世紀はヘーゲルの哲学に象徴されるようにあらゆる思想が統合され、体系化される時代であった。そして二十世紀はそれらが分裂し、崩壊していく時代であった。その現象は二十世紀末の今日も顕著である。今世紀最大の思想であったマルクス主義の運命がそれを示している。

二十一世紀はおそらく総合の時代になるだろう。かつて分裂し、崩壊した思想が新たに総合される時代である。それは学術のありかたに関してもいえる。学問は二十世紀に極度に専門化され、細分化されたが、それらは再編成され、学際化されて、新しい学問が生まれつつある。文化人類学、分子生物学、人間工学、文学社会学などである。

社会的な局面で考えればナシヨナリズムとインターナシヨナリズムの対立は二十世紀の大きな問題であった。だが近年、ヨーロッパ共同体の発展や最近のソ連における諸共和国

の自立とゆるやかな連合、あるいは湾岸戦争に際しての国連による紛争への調停や介入がおこっている。これらはよきにつけ、あしきにつけ、地球大の規模の総合という問題にかかわっていく時代であることを示している。

ところで二十一世紀の大学はどうなるか。いやどうあるべきか。かつて大学は少数のエリートが学術の蘊奥を極めるところであった。だが青年層の半数以上が大学を志望する大衆化の時代に入って、多様、多彩な知的空間になりつつある。

十九世紀以来の教養主義は減んで専門主義がさかんであったが、二十一世紀にはまた新しい教養主義がこころだろう。それはいわゆる知識だけではない、全人的な知識の領域にわたり、それらがたがいに結びつくありかたである。

総合大学というけれど大学における総合の意味は多くの学部があるということではない。ユニヴァーシティとはそれらが有機的にかかわりあっていることである。

流としても望ましいことである。

そして大多数が日本人の学生と教員であった、この国の大学にようやく外国人の学生と教員の数が増えており、その傾向はさらに進むだろう。言語や文化や習慣の相違による困難な問題があるが、それらをのりこえていくことが地球大になりつつある時代の必然である。老若男女、日本人と外国人の共存、交流ということも総合化の要因である。

さらに二十一世紀の大学はなによりも楽しい大学であるべきだ。楽しいとはなにか。ニーチェは「楽しい知識」(Die frohliche Wissenschaft)のなかで、「おそらく学問は今でも、まだ人間からその喜びを奪い、人間をつめたく、影像的にストイックなものにする、その力により多くの人々に知られているだろう」とのべている。

学問や芸術は本来、楽しいもの、おもしろいものである。それを苦しむもの、つまらないものにしてきたのは、従来の大学であった。

学問の楽しさは一つの専門に没頭するだけでなく、周辺の領域に総合的にかかわっていくとき、さらに深化する。

## 京都精華大学 1992 年度入試日程

### 人文学部

- ①募集定員……人文学部 人文科学 300名
- ②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	試験会場	試験科目
公募推薦入試	11月5日(火) 11月15日(金)	11月23日(土)	11月27日	12月6日	本学及び 関西文理 学院	英語
一般一次入試	1月20日(月) 2月3日(月)	2月11日(火)	2月15日	2月24日	本学及び 関西文理 学院	英語、国語、 選択科目(日本史・ 世界史・小論文から 1科目選択)
一般二次(地方)入試	2月17日(月) 2月27日(木)	3月3日(火)	3月7日	3月13日	東京 金沢 名古屋 広島	英語、国語、 選択科目(日本史・ 世界史・小論文から 1科目選択)

③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。

### 美術学部

- ①募集定員……美術学部 造形学科 150名 デザイン学科 150名
- ②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	会場	試験科目
公募推薦入試	11月18日(月) 12月3日(火)	造形 12月13日(金) 14日(土) デザイン 12月11日(水) 12日(木)	12月19日	12月31日	本学	実技A (鉛筆デッサン) 実技B (専攻分野実技)
一般入試	1月24日(金) 2月7日(金)	造形 2月17日(月) ～19日(水) デザイン 2月15日(土) 16日(日)	2月23日	3月2日	本学	英語 文章の理解 実技A 実技B

③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。

# 第一次将来構想委員会発足

『第一次将来構想委員会』の設置  
 大学社会において、現状を要する  
 ことは大変なエネルギーを要する  
 と一般的にいわれています。  
 大学の閉鎖性と保守性の一面を表  
 しているのかもしれない。  
 しかし十八歳人口の急増・急減期  
 を迎えるにあたって、日本の私立大  
 学の多くもついていたそのような独  
 りよりの考えは通用しなくなり、  
 各大学が存亡をかけて、必死に生き  
 残りのための変革を考へざるをえな  
 くなったのである。

わが大学でも一九八六年に『第  
 一次将来構想委員会』を発足させ、  
 将来計画が検討されてきました。その  
 計画と進捗状況は別表の通りです。  
 計画の内容は是非については色々意  
 見があるかもしれませんが、委員  
 会の発足がなければ、又担当の先生方  
 の苦勞がなければ、一つ実現し  
 なかったはずで、学部の設置とい  
 言では、午前〇時を過ぎる。それが何

日続いたことか。  
 報われることのない(?)無償の  
 努力によって、この大学が支えられ  
 ている部分があることも、われわれ  
 は肝に銘じておく必要があります。  
 『第二次将来構想委員会』の発足  
 内容が本年度の大学院設置で大幅に  
 おいて実現することができました。  
 短期間によくこれだけ(別表参照)  
 のことができたと思いますが、これ  
 で終わりというわけには行きませ  
 ぬ。

いよいよ十八歳人口の急減期が始  
 まります。大学を取りまく厳しい現  
 実を直視し、二十一世紀に向けてわ  
 が大学は何をしたら良いのかを検討  
 するために『第二次将来構想委員会』  
 が去る六月に設置されました。  
 委員の方々は本当に「苦勞万端」で  
 が、全教職員もまた奮闘を出し合い、  
 果敢に決断をしていく必要があると  
 思います。

## 第一次将来構想委員会検討事項

検討事項	計画と進捗状況
『短期大学部英語英文科の将来計画について』 (短期大学部専門部会)	◎『四年制大学の学部改組転換をはかる』 1989年『人文学部人文学科』を開設
『美術学部の将来計画について』 (美術学部専門部会)	◎『入学定員増と専攻分野増をはかる』 1987年に入学定員を120人から240人に増員 1988年に版画・陶芸・建築分野を増設
『国際交流の充実について』	アンティオク大学(アメリカ)と提携 国際交流課を新設
『教職員の適切な増員について』	計画的に充実
『大学名称の変更について』 (名称検討委員会)	◎『大学院の設置をはかる』 1991年に大学院美術研究科を開設
	◎『大学院の設置をはかる』 1991年に大学院美術研究科を開設
	継続検討中

## 「大学名称問題」の検討経過について

●大学名称変更の検討  
 大学の名称を変更したいという考  
 えは、一九六八年の開学当初からあ  
 りましたが、本格的に教職員が検討  
 したのは、一九八八年と一九九〇年  
 の二回です。  
 名称変更については多くの教職員  
 が賛成ですが、具体的な名称になり  
 ますとなかなか一致することができ  
 ず、学長に一任ということになりま  
 した。

●学生大会で反対決議  
 一九九一年一月に開催された学生  
 大会で名称変更反対の決議がされま  
 した。

●名称問題検討組織の設置  
 大学は名称問題について、一般学  
 生に対して合計九回の説明会を持  
 ちました。その後開催された学生大  
 会では名称問題検討組織の設置が承認  
 されました。  
 理事会と自治会とは正式に、『第三  
 次名称問題検討委員会』の発足を  
 確認し、夏季休暇明けから活動する  
 ことになりました。

伊谷記念  
 朽木学舎  
 まもなく竣工  
 『伊谷記念』のいわれ  
 一九六八年、京都精華短期大学が  
 設立されたとき、美術科の主任教授  
 であった伊谷賢蔵先生は、第一期生  
 をおくりだすときにも亡くなられ  
 た。病気がちであった先生に教を  
 いただいた時間は少なかったが、少  
 しても接した先生はいちように先生  
 を敬愛したものであった。  
 先生が亡くなった後、誰からも  
 もなく先生の画業がだれからも、人柄  
 をしのび画集がだれからもという話  
 持ち上がり、当時の学長であった岡  
 本清一先生が本学で出版することを

## 伊谷記念 朽木学舎

伊谷家のご好意に報い、先生に相  
 応しいものは何か。学内でいろいろ  
 検討されたが適当なものもなく、悩  
 んでいたところ、用務員の産坂さん  
 (故人)が自分の生まれたところ  
 (朽木村)を一度見てもらいたいとい  
 いだされ、伺うことになった。  
 今日のように道路は整備されてお  
 らず、運転に苦勞しながら奥へ進む  
 と、小高いところにご存知の朽木学  
 舎が見えた。近づくにつれ放題で  
 おけけ屋敷のような建物があり、中  
 学の分校が廃校になったものだと  
 うのである。  
 「これだ。先生は山が好きだった。  
 これしかない」との思いがつのり、  
 その足で現場を訪れた。  
 村長さんと助役さんにお目にかか  
 り、大学の施設として利用したいの  
 で、譲って貰えないかとお願いした  
 のが始まりである。その後好意曲折  
 はあったが地元の方々のご好意で  
 大学の施設とすることができたので  
 ある。

●朽木学舎改築  
 学生・教職員に親しまれた朽木学  
 舎も、いたが激しく改築せざるを  
 えなくなった。何とか、あの牧歌的  
 で郷愁を感じさせる建物を残したい  
 と考えたが、検討の結果新しくす  
 ることになったのである。  
 朽木学舎を購入したとき、泊まり  
 込んで壁のペンキを塗ってくれた洋  
 画の学生諸君が、  
 当時室内にはこの卒業生が書い

## (就職課からの報告)

昨年よりスタートが一段と早  
 まった今年の就職戦線もほぼ終  
 了。  
 ただ、採用予定人数に達せず、  
 第二次募集を行う企業も少なく  
 ありません。中堅・中小企業は  
 なかなか大変のようです。また、  
 例年そうですが、これから就職  
 活動に取り組み学生も見受けら  
 れます。  
 昨年と基本的に変わった点は  
 ありませんが、今年の傾向をあ  
 りてみます。  
 ①引き続き東京企業からの求人  
 が増加している。  
 ②「一流」企業への就職の  
 増加  
 (鐘紡・C.S.K.・カシオ計算  
 機・日産自動車・鹿島建設・  
 大和紡績など)  
 ③従来採用実績の高かった地場  
 産業(伝統産業)への就職の減少  
 ④部品メーカーなどのデザイン  
 関係の求人、大企業への就職  
 問題からの求人の増加  
 卒業生の皆さんは、学生が  
 いろいろと面倒をおかけしたこ  
 とと思います。この場をかりて  
 お礼申し上げます。  
 来年は人文学部第一期生が就  
 職戦線に加わります。  
 いっそうのお力添えをお願い  
 します。

## ミシガン大学(サマープログラムに)

芸術分野の専門実技・講義を受  
 け、キャンパスライフを通じて異文  
 化や社会構造を理解し、国際的視野  
 を広げる機会を与える事を目的とし  
 てアメリカのミシガン州立大学の  
 国際教育交換が1990年より行わ  
 れています。

●学生大会で反対決議  
 一九九一年一月に開催された学生  
 大会で名称変更反対の決議がされま  
 した。

●名称問題検討組織の設置  
 大学は名称問題について、一般学  
 生に対して合計九回の説明会を持  
 ちました。その後開催された学生大  
 会では名称問題検討組織の設置が承認  
 されました。

●朽木学舎改築  
 学生・教職員に親しまれた朽木学  
 舎も、いたが激しく改築せざるを  
 えなくなった。何とか、あの牧歌的  
 で郷愁を感じさせる建物を残したい  
 と考えたが、検討の結果新しくす  
 ることになったのである。

●就職課からの報告  
 昨年よりスタートが一段と早  
 まった今年の就職戦線もほぼ終  
 了。  
 ただ、採用予定人数に達せず、  
 第二次募集を行う企業も少なく  
 ありません。中堅・中小企業は  
 なかなか大変のようです。また、  
 例年そうですが、これから就職  
 活動に取り組み学生も見受けら  
 れます。  
 昨年と基本的に変わった点は  
 ありませんが、今年の傾向をあ  
 りてみます。  
 ①引き続き東京企業からの求人  
 が増加している。  
 ②「一流」企業への就職の  
 増加  
 (鐘紡・C.S.K.・カシオ計算  
 機・日産自動車・鹿島建設・  
 大和紡績など)  
 ③従来採用実績の高かった地場  
 産業(伝統産業)への就職の減少  
 ④部品メーカーなどのデザイン  
 関係の求人、大企業への就職  
 問題からの求人の増加  
 卒業生の皆さんは、学生が  
 いろいろと面倒をおかけしたこ  
 とと思います。この場をかりて  
 お礼申し上げます。  
 来年は人文学部第一期生が就  
 職戦線に加わります。  
 いっそうのお力添えをお願い  
 します。

## 三寮の売却を決定

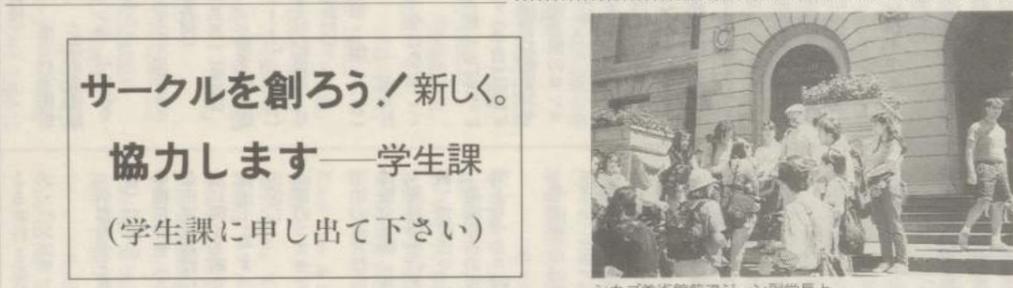
●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

芸術分野の専門実技・講義を受  
 け、キャンパスライフを通じて異文  
 化や社会構造を理解し、国際的視野  
 を広げる機会を与える事を目的とし  
 てアメリカのミシガン州立大学の  
 国際教育交換が1990年より行わ  
 れています。  
 ●学生大会で反対決議  
 一九九一年一月に開催された学生  
 大会で名称変更反対の決議がされま  
 した。



シカゴ美術館前でジーン副学長と

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

●三寮の売却を決定  
 第2期事業へ断腸の決断  
 本学では第2期施設整備計画の実  
 施に必要な自己資金を調達するため  
 に再来年の3月に学生寮を売却す  
 る決意を致しました。  
 市原、橋本、静思の3つの寮は過  
 去多数の寮生を送り出し、現在も約  
 百名の学生の生活の場として有意義  
 に利用されています。  
 にもかかわらず寮を手放さざるを  
 えないうことは、ことに断腸の思いで  
 すが、今日、18歳人口の激減その他  
 大学を取りまく経営環境が急速に悪  
 化している状況の中で、本学が小さ  
 いながらもユニークで存在価値のあ  
 る大学として生き残って行くために  
 はどうして第2期計画の実現が必要  
 である。そしてそのための資金を全  
 額借入金でまかなうことが到底不可  
 能であり、財政的な力の乏しい本学  
 が自己資金を捻出するにはこれ以外  
 に方法がないので、やむをえず決断  
 したわけである。

## 「大学名称問題」の検討経過について

●大学名称変更の検討  
 大学の名称を変更したいという考  
 えは、一九六八年の開学当初からあ  
 りましたが、本格的に教職員が検討  
 したのは、一九八八年と一九九〇年  
 の二回です。  
 名称変更については多くの教職員  
 が賛成ですが、具体的な名称になり  
 ますとなかなか一致することができ  
 ず、学長に一任ということになりま  
 した。

●学生大会で反対決議  
 一九九一年一月に開催された学生  
 大会で名称変更反対の決議がされま  
 した。

●名称問題検討組織の設置  
 大学は名称問題について、一般学  
 生に対して合計九回の説明会を持  
 ちました。その後開催された学生大  
 会では名称問題検討組織の設置が承認  
 されました。

伊谷記念  
 朽木学舎  
 まもなく竣工  
 『伊谷記念』のいわれ  
 一九六八年、京都精華短期大学が  
 設立されたとき、美術科の主任教授  
 であった伊谷賢蔵先生は、第一期生  
 をおくりだすときにも亡くなられ  
 た。病気がちであった先生に教を  
 いただいた時間は少なかったが、少  
 しても接した先生はいちように先生  
 を敬愛したものであった。  
 先生が亡くなった後、誰からも  
 もなく先生の画業がだれからも、人柄  
 をしのび画集がだれからもという話  
 持ち上がり、当時の学長であった岡  
 本清一先生が本学で出版することを

## 伊谷記念 朽木学舎

伊谷家のご好意に報い、先生に相  
 応しいものは何か。学内でいろいろ  
 検討されたが適当なものもなく、悩  
 んでいたところ、用務員の産坂さん  
 (故人)が自分の生まれたところ  
 (朽木村)を一度見てもらいたいとい  
 いだされ、伺うことになった。  
 今日のように道路は整備されてお  
 らず、運転に苦勞しながら奥へ進む  
 と、小高いところにご存知の朽木学  
 舎が見えた。近づくにつれ放題で  
 おけけ屋敷のような建物があり、中  
 学の分校が廃校になったものだと  
 うのである。  
 「これだ。先生は山が好きだった。  
 これしかない」との思いがつのり、  
 その足で現場を訪れた。  
 村長さんと助役さんにお目にかか  
 り、大学の施設として利用したいの  
 で、譲って貰えないかとお願いした  
 のが始まりである。その後好意曲折  
 はあったが地元の方々のご好意で  
 大学の施設とすることができたので  
 ある。

●朽木学舎改築  
 学生・教職員に親しまれた朽木学  
 舎も、いたが激しく改築せざるを  
 えなくなった。何とか、あの牧歌的  
 で郷愁を感じさせる建物を残したい  
 と考えたが、検討の結果新しくす  
 ることになったのである。  
 朽木学舎を購入したとき、泊まり  
 込んで壁のペンキを塗ってくれた洋  
 画の学生諸君が、  
 当時室内にはこの卒業生が書い

## (就職課からの報告)

# 教職員研究活動 (アルファベット順)

◆**麻田橋一** (美術学部教授)  
 新制作展 1990.9-10 東京都美術館  
 清流会展 1991.2 京都市美術館  
 日米サフォーエニスデザイン展, Perspectives from Rims, 1991.6-7  
 Bellevue Museum

◆**安藤邦洋** (美術学部助教授)  
 「芸術の理論と歴史」 (共著) 1990.3  
 「カントとフリードラー」 (単著) 1991.5 京都精華大学紀要第1号  
 ◆**荒岡興太郎** (美術学部教授)  
 EC—欧州統合の現在第2版 (共著) 1990.8 創元社  
 ILFAストックホルム大会に参加して (単著) 1990.9 現代の図書館 Vol.28No.3  
 図書館利用教育に関心を (単著) 1991.8 早稲田大学図書館紀要34号  
 P・ヴァスサラ著「大学図書館のコンソシアム」 (共編) 1991.6 同志社大学図書館学年報17号  
 ◆**千坂靖朗** (人文学部教授)  
 「ラテンにおけるプラバンのシゲルスの位置」 1990.3 「木野評論」第21号  
 Franz von Assisi 1990.8  
 "Knowledge and the Sciences in Medieval Philosophy", Proceedings of the 8th International Congress of Medieval Philosophy, vol.2  
 「トマス・アクイナスにおけるハビトゥスの構造と意味」 1991.5 京都精華大学紀要 第1号  
 ◆**遠藤育枝** (人文学部講師)  
 翻訳「不思議な黒い石」シル・メイトン・ウォルシュ著 1990.9 出版工房厚生林  
 「フタ王子」 1991.4 西村書店  
 共訳「パッチワークたいすきわ」W・メイニング著 N・ペイリー絵 1990.10 ブックローン出版  
 ネズミあなのネコの物語 A・ハーバー著 N・ペイリー絵 1991.8 ブックローン出版  
 ◆**深作光真** (人文学部教授)  
 ニューカレドニア美術 1990.2 明治学院国際学研究所第5号  
 ◆**呉 宏明** (人文学部助教授)  
 『大英帝国の子どもたち—聞き取りに』

よる非行と抵抗の社会史」ステイヴン・ハンフリーズ著 (共訳) 1990.7 拓植書房  
 『京都府会と教育政策』本山幸彦編 (共著) 1990.9 日本図書センター  
 ◆**橋爪紳也** (人文学部講師)  
 都市再編過程における建築施設整備の役割に関する研究 (単著) 1990.1 私家版  
 都市—集まって住むかたち (共著) 1990.3 朝日新聞社  
 都市のコスモロジー (編著) 1990.4 TBSブリタニカ  
 明治の迷宮都市 (単著) 1990.5 平凡社  
 博覧会見物 (共著) 1990.6 学芸出版社  
 「海遊都市のデザイン」 (単著) 連載 1990.10-1991.6 『商店建築』  
 「遊園都市の近代—遊」イメーシ先行型キヤプのり系譜 (単著) 1991.5 『都市問題研究』  
 「楽園都市の開発史」 (単著) 連載 1989.9-1991.3 『大建協』  
 「近代日本の都市プランナーたち」 (単著) 連載 1991.1- (連載中) 『ANEMOS』  
 「都市と見世物小屋の近代」 (単著) 連載 1989.9-1990.2 『月刊百科』  
 ◆**葉山 勉** (美術学部講師)  
 京都文化考—京都の現代建築— 1991.7 京都新聞  
 京都文化考—京都の現代建築— 1991.7 京都新聞  
 京都文化考—京都の現代建築— 1991.7 京都新聞  
 都市と建築 1991.1 プレイトラフ  
 近未来の余暇施設 1991.7 プレイトラフ  
 遊女の都市建築展 (グループ) 1990.10 大阪心斎橋パルク  
 同右 1990.11 東京ライティングシアター/イヌム  
 ◆**長谷川 昇** (美術学部助教授)  
 個展 1990.12 大阪ABCギャラリー  
 91美術展 1991.5 京都市美術館  
 ◆**伊奈新祐** (美術学部講師)  
 エントロピーと(無)秩序 (by Barbara London) (翻訳) 1989.12 「イメーシフォーラム」(タケレオ出版) 12月号  
 「イメーシフォーラム」(タケレオ出版) 1989.12

日本映像学会西部支部編「映像と理論—電子の魅力—ビデオ・スカルプチャーの変化する言葉 (by Davidson Giarotti) (翻訳) 1990.6 「イメーシフォーラム」(タケレオ出版) 6月号  
 ヘルリン映画祭・ビデオ部門「Video Fest'90」1990.2 ヘルリン(ドイツ)  
 イメーシフォーラム・フェスティバル 1990.1990.46 シードホール(東京)  
 モンペリアル国際テレビ/ビデオ・フェスティバル 1990.6 オスナブリュック(ドイツ)  
 ヨーロッパ・メディア・アート・フェスティバル 1990.9 オスナブリュック(ドイツ)  
 VIPER'90 1990.10 ヘルリン(スイス)  
 Annual Dallas Video Festival 1990.11 ダラス美術館(アメリカ)  
 [Private Visions—Japanese Video Art in the 1980s] 1990-93 欧米巡回中  
 原美術館コレクション展 1991.7-9 原美術館(東京)  
 ジャパン・フェスティバル 1991.8 ロンドン(イギリス)  
 ビデオアート・フェスティバル 1989.11 ニアソオオナックプラザ(福岡)  
 インパクトアート・フェスティバル10周年記念特別展 1989.11-12 京都府立文化芸術会館(京都)  
 個展 (画廊企画) 1990.2 アートスペース(福岡)  
 個展 1990.3 福岡県立美術館視覚室  
 二人展 (画廊企画) 1990.5 イムズFM福岡・ギャラリー GAYA (福岡)  
 個展 (画廊企画) 1991.7 CITY GALLERY (神戸)  
 ◆**市村富美夫** (美術学部講師)  
 日展 1990.11 東京都美術館  
 日展京都展 1990.12-91.1 京都市美術館  
 日本現代工芸美術展 1991.3-4 東京都美術館  
 日本現代工芸美術近畿展 1991.4 京都市美術館  
 日本現代工芸美術近畿会—30年を顧みる—展 1991.4 京都府文化博物館  
 日本現代工芸美術第30回記念秀作展

1991.8-9 東京日本橋高島屋  
 日本現代工芸美術近畿展 1990.12 府立文化芸術会館  
 ◆**生駒泰充** (美術学部講師)  
 第43回二紀展 1989.10 東京都立美術館(その他京都市美術館等巡回)  
 第33回安井賞展 1990.3-4 センソ美術館(東京)  
 第37回四三二紀展 1990.6-7 大田市立美術館  
 第38回四三二紀展 1991.6 大田市立美術館  
 武蔵野美術大学創立60周年記念特別展 1989.9-10 新宿NSビル  
 第2回回展 1989.12 日本橋三越本店  
 第2回回展 1990.1 蔵匠画廊(京都)  
 第8回回展 1990.3 フジキ画廊モダン(東京)  
 第8回回展 1990.5-6 心斎橋フジキギャラリー(大阪)  
 1990年度安井賞入選作家6人展 1990.9 グランドギャラリー(大阪)  
 爽の会 1990.10 キヤラリー井上(大阪)  
 第2回山の会展 1990.11 西郷山口(大阪)  
 第2回あさの会油絵展 1990.11-12 新宿NSビル  
 第4回 AUBE展 1990.12 日本橋三越(東京)  
 第3回回展 1990.12 日本橋三越(東京)  
 91京都アンパンタン展 1991.2-3 京都市美術館(京都)  
 第1回回展 1991.4 キヤラリーダイヤモンド(大阪)  
 早月会(土・風・光・水)展 1991.5 日本橋三越(東京)  
 第3回回展 1991.6 もりもと画廊(東京)  
 ◆**黒崎 彰** (美術学部教授)  
 第1回パラバパン国際版画ビエンナーレ、特別賞受賞 1989 インド

第1回国際紙の芸術ビエンナーレ、ニーステッド 1989 デンマーク  
 アートエキサイティング89「現在を越えて」1989 埼玉県立近代美術館、タインズランド美術館 オーストラリア  
 「芸術風、空舞う絵画」展、ミュンヘン美術館 1989 ドイツ  
 第11回パンスカ国際版画展ビエンナーレ、名譽賞受賞 1990 チェコスロバキア  
 「日独紙の造形」展、ベルリン、テンペルホーフ美術館 1990 ドイツ  
 シロタ画廊個展 1989 東京  
 キヤラリーむかい個展 1989 神戸  
 音協あーとさろん個展 1990 京都  
 キヤラリー大雅堂個展 1991 京都  
 キヤラリー倉庫個展 1991 北九州  
 「からかみと色彩木版」(単) 1989.4 版画芸術64  
 「オオパンから錦絵へ」(単) 1989.7 版画芸術65  
 「錦絵と貝当の秘密」(単) 1990.1 版画芸術67  
 ◆**楠瀬佳子** (人文学部教授)  
 訳書「この世界のはざま」 1990.1 新水社  
 共訳書「女が集まる—南アフリカに生きた」 1990.5 現代企画室  
 「エネスコのアフリカの歴史」第一巻 1990.8 同朋社出版  
 「アバルトヘイト問題入門」 1990.9 第三書館  
 「ホルン・マンデラ伝—こぶは希望より高く」 1990.10 明石書店  
 共著「英語で読むフェミニズム」 1991.4 創元社  
 編著「女たちの世界文学—ゆりかえられた女性像」 1991.6 松香堂  
 「差別とたたら文化」 1990.1 別冊「開放教育」(明治図書)  
 Women's Images in Bessie Head's Works 1990.3  
 『関西女学院短期大学研究紀要』第3号  
 『南アフリカの女性作家の登場』 1991.4 「グリオ」(平凡社)  
 アバルトヘイト下の「家族」 1991.4 立命館大学「言語文化研究紀要」  
 ◆**片桐ユズル** (人文学部教授)  
 オーション・ビーン「オルゴン療法がわたしを変えた」(中川吉晴・岡本史子共訳)

# 教職員研究活動 (アルファベット順)

訳) 1990.1 フニテ 2001  
 「はじめてにはんち」(単著) 1990.5 大修館  
 宝島編集部編『精神療法と瞑想』(共著) 1991.8 JICC出版局  
 「サイシク・イングリッシュの昔草と原理」 1990.6 Graded Direct Method Association of Japan News Bulletin No.42  
 「メディア史上のサイシク・イングリッシュ(6)—ヘンリー・ヒギンズの時代」 1991.5 同右 No.43  
 「文芸批評のランボーは、どこに消えたか?—A・A・リチャーズと「World English」 1991.5 京都精華大学紀要 第1号  
 ◆**河村源三** (美術学部助教授)  
 第21回日展 1989.11 東京都立美術館  
 第22回日展 1990.11 東京都立美術館  
 現代京都の美術・工芸展 (招待) 1990.2 京都新聞日本画賞展 (招待) 1990.3 大丸「ニューシム」KYOTO  
 グループ「女」日本画展 1990.5 京都府立文化芸術会館  
 個展 (四季の花) 1990.11 大阪神百貨店  
 グループ「女」日本画展 1991.5 京都府立文化芸術会館  
 ◆**笠原芳光** (人文学部教授)  
 「ロマンチズムとしての天皇制」1980.11 「仏教」  
 「純粋な魂の道した言葉」 1990.1 「同志社時報」  
 「神教か多神教か」 1990.7 「G-TEN」  
 「宗教とはあまのうご」 1990.9 「大法輪」  
 「宗教とては、聖とはなにか」 1991.3 「木野評論」  
 「わたしの神」をめぐり出会う。1991.6 「仏教」  
 「悪魔とはなにか」 1991.7 「本のつくり」  
 ◆**柏原えつこ** (美術学部助教授)  
 「現代美術演習III」(共) 1991.1 現代企画室  
 「の迷宮」(単) 1989.9 「未生」  
 「開かずの扉のロッセ」(単) 1990.12

「トリイカ」  
 コラム・月々抄 1990.6 「美術の名匠」他四篇を連載 京都新聞  
 開館記念4人展 89 1989.9-10 ヒノギャラリー (東京)  
 ドウローイング現在展 1989.10-11 国立国際美術館 (大阪)  
 ドウローイング倉庫展 1990.1 ヒルサイドギャラリー (東京)  
 今、ドウローイング展 1990.6 ヒノギャラリー (東京)  
 個展 1990.9 キヤラリー16 (京都)  
 ドウローイング倉庫展 1991.1 ヒルサイドギャラリー (東京)  
 京都府立美術館取組展 1991.2-3 東京都美術館 (東京)  
 京都アンパンタン展 1991.2-3 京都市美術館 (京都)  
 個展 1991.4 ヒルサイドギャラリー (東京)  
 BACK AND FORTH展 1991.6-7 キヤラリー16 (京都)  
 70's-80's展 1991.7 鎌倉画廊 (東京)  
 壁画制作 1989.11 相武病院エントランス (八王子市)  
 壁画制作 1990.3 パチンコ飛鳥 (東京)  
 壁画制作 1990.10 PHILIP JAY LEWITT (人文学部教授)  
 To Wit, To Woo 1989 秋 Edge Readers Feeling: A Different Approach to Reading and Literature 1989.11 The Language Teacher  
 Kook Eyes in the Spiritual Supermarket 1989 冬 Edge  
 Revivifying Classroom Narcotics 1990.1 The Language Teacher  
 How to Cook a Tasty Essay: the Secret of Real Rewriting 1990.1 English Teaching Forum  
 Thoreau as the First American Dharma Bum 1990.3 Studies in English Literature Cary Snyder and the Voro 1990 春 Kyoto Review

Archeopoetics: Mysticism and Modernism 1991 Journal of K.S.U.  
 ◆**丸谷 彰** (美術学部助教授)  
 織・旗展 (グループ) 1989.9 名古屋 栄セントラルパーク  
 記録映画「へん」上映発表 1989.11 滋賀県立婦人センター  
 「新しい映像の可能性を探る」上映発表 1989.12 京都精華大学  
 「第12回日本映像民俗学の会」上映発表 1990.4 長野県  
 「朽木村ふるさと講座」上映発表 1990.6 滋賀県  
 シナリオ「へん」 1990.3 木野評論 No.21  
 記録映画「草鞋づくり—ユンゾフランチ」第13回日本映像民俗学の会」上映発表 1991.4 劇団展望(東京)  
 公演ポスター(練肉工房)「AYAKO SEKICHI」のための織旗 1989.11 鉄仙会能舞台(東京)  
 『水の声』1991.6 青山山形劇場(東京)  
 ブックデザイン「アジア諸民族の生活文化」移情閣道園「人権思想の歴史と現代」赤須市ちやんは森を抜けて「近畿の産業博物館」光あふむち「大学講義」チャールズ・ビネン「連邦治海州で考えたこと」部路の過去・現在・未来」フットデザイン「市民運動の宿題」1991.8 思想の科学社  
 ◆**松味利郎** (美術学部教授)  
 ●デザイン発見—壁絵のある家4「北イタリ」 1990.6 京都書院  
 CIBIANA DI CADORE IL PAESE CHE DIPINGE LA SUA STORIA SECONDO CICLO: 1985-1990 1991.7 (写真担当)  
 COMUNE DI CIBIANA DI CADORE REGIONE VENETO  
 写真展「北イタリアの壁絵のある風景」1990.11-12 日本イタリア京都協会  
 ◆**武蔵藤彦** (美術学部講師)  
 「次代を担う作家」展 1989.9

京都府文化芸術会館  
 30人の日本現代版画展 1989.10 ヘルギー  
 インターグラフィック'90 1990.4 ヘルリン  
 インタープリント'90 1990.10-11 京エント  
 京都90美術展 1990.5 京都市美術館  
 グループ展 ネオ・グラフィカ 1990.1-2 キヤラリー白(大阪)  
 グループ展 マキシ・グラフィカ 1990.7 ハイネケン ビレンジ・ギャラリー(東京)  
 個展 1991.4 キヤラリー コロ(京都)  
 個展 1991.7 ドン・ソーカー・コンテンポラリー・アート (サンフランシスコ)  
 ◆**松野潔子** (美術学部教授)  
 『英語で読むアメリカのフェミニズム』(共著) 1991.4 創元社  
 わたしにとっての女性開放—三つの支配からの開放 (単著) 1991.7 季刊「女子教育もんだい」No.48  
 ◆**松本ヒデオ** (美術学部講師)  
 遊びのシンポジウム 1989.9 彩陶庵(秋)  
 第2回国際陶磁器フェスティバル美濃銅賞 1989.10-11 多治見  
 やまものにおける空間認識展 1990.9 キヤラリーいそがや(東京)  
 BAO美術祭 IN 沖島 1990.10-11 沖島(滋賀)  
 京都工芸連展 優秀賞 1990.11 京都府立芸術会館  
 次代を考える空間展 1990.12-1991.1 西武大宮アートギャラリー  
 芸術祭典・京「新古典主義」 1991.3 岩城邸  
 「表現の新しい展開を探る6人展」 1991.3-4 滋賀県立水口文化芸術会館  
 国際現代陶芸展「変貌する陶芸」1991.4-5 滋賀県立陶芸の森 陶芸館(信楽)  
 個展 1989.10-11 キヤラリーロロニエ(京都)  
 90「輪挿し展 1990.8 キヤラリーロロニエ(京都)  
 韓日青年陶芸作家交流展 1990.8 錦湖美術館(ソウル)

現代作家立体小品展展覧 V 1991.2-3 ワールド銀座アートスペース(東京)  
 二人展 1991.3 キヤラリー・なかむら(京都)  
 個展 1991.3 キヤラリー・プス(東京)  
 飲食展 1991.6 キヤラリー・なかむら(京都)  
 '91「輪挿し」展 1991.7 キヤラリーロロニエ(京都)  
 日韓青年陶芸作家交流展 1991.8 キヤラリーロロニエ(京都)  
 ◆**松本健一** (人文学部教授)  
 『神の畏—浅野和郎』 1989.10 新潮社  
 『世界史のゲーム』を日本が超える。 1990.6 文藝春秋  
 『仮説の物語り』 1990.9 新潮社  
 『蓮田善明 日本伝説』 1990.11 河出書房新社  
 『地にかたち』 1991.8 河出書房新社  
 『アンデスの蒼きまた谷』 1991.7 (小説連載) 文学界  
 われに古の心あり—小林虎三郎と近代日本 1989.6-1991.4 正論  
 『世界史のゲーム』の終わらせかた 1991.4 中央公論  
 東アジア近代の精神史 1990.9-1991.9 歴史読本・ワールド  
 原理主義について 1990.9 アーガマ  
 モダニズムからファシズムへ 1991.3 国文学  
 明治の「場所」がよみがえる 1990.6-1991.9 サンサーラ  
 日米「泡の一戦」はあるか 1991.9 中央公論  
 ◆**松谷昌順** (美術学部助教授)  
 小倉直子ピアノリサイタルプロモーションポスター 1989.5 ザ・シンホニーホール  
 同右 1990.4 いずみホール  
 (エディトリアル・デザイン)  
 木野評論 ADとロコタイプ・デザイン 1991.3 京都精華大学  
 個展「本版によるグラフィック・アート」 1989.12 坪町画廊  
 ◆**中島勝住** (人文学部助教授)  
 中国を読むキーワード (共著) 1990.5 蒼蒼社

教職員研究活動 (アルファベット順)

教師の仕事 1991.5 解放研究が創刊号  
書評「中国の近代教育と明治日本」1991.8  
アジア研究 37-4

◆中島和子 (人文学部教授)  
「黒人の政治参加と第三世紀アメリカの  
出版」(単著) 1989.10 中央大学出版部

◆難波重彦 (美術学部講師)  
「視覚伝達デザインのレトリック研究」  
— 1991.5 京都精華大学紀要 No.1  
— ソフトアルコール飲料の広告分析—  
1991.9

◆小椋純一 (人文学部講師) ちと書房  
共生の環境生物学 (共著) 1989.12  
森と人間の環境生態学序説 (単著)  
1990.4 大地社

◆植生史研究  
京都近郊山地の植生史 (単著) 1990.1  
「華洛一覽図」の考察を中心とした文化  
年間における京都周辺山地の植生景観  
(単著) 1990.3 造園雑誌  
室町後期における京都近郊山地の植生景  
観 (単著) 1990.3 木野評論  
志摩図の考察からみた江戸中期における  
京都近郊山地の植生景観 (単著) 1991.3  
造園雑誌

◆佐川昌司 (美術学部講師)  
都市生活と水 (単) 1991.8  
都市生活と水 (単) 1991.8  
都市問題研究 Vol.43 No.8  
1991.11 石屋町ギャラリー

◆柴谷篤弘 (人文学部教授)  
「反差別論」1989.10 明石書店  
「科学批判から差別批判へ」1991.2  
明石書店  
『連邦沿海州で考えたこと』1991.5  
阿吽社

◆高等学術研究所とはなにか 1989.12  
科学 59 (12)  
Stability of arbitrary structures 1989.12  
Rivista di Biologia 82 (3-4)  
日本・中華人民共和国間チヨウガ目研究  
のための科学協力についての覚書  
1989.10 やまが (138)

◆東アシアを変える「ヒール」の環境を自  
主的に越えて開く (書評) 1990.1  
図書新聞 (67)  
第3世界への科学転移をどう見るか  
1990.1 クライシス (40)  
非暴力革命 1990.2 記録 (131)  
英語と日本語の間 1990.3  
木野評論 (21)  
唯論論・構造主義生物学・神学 1990.3  
哲学 (10)  
生物学から「反差別論」へ 1990.4  
記録 (133)

◆杉田元章先生を偲ぶ 1990.4 えず (43)  
進化の階層論 1990.5 生物学 42 (2)  
住民運動の実践と社会科学者の科学批  
判 (書評) 1990.5 科学朝日 50 (5)  
つづつての科学 1990.6  
検証「昭和の思想」III  
自然保護について最近生じた思考の転回  
1990.7 技術と人間 19 (7)  
私におけるアナキズムの経緯 1990.7  
自由意志 (17・18)  
日本における生態学と社会との界面  
1990.8 生物学 42 (3)  
大学国際化のための言語をどうするか  
1990.8 科学 60 (8)  
構造主義生物学とエコロジー 1990.9  
情況 1 (3)  
Tenure in Japan 1990.9  
Nature 347 (6289)  
ソ連沿海州に「生態系の多様性」を見る  
1990.9 毎日新聞  
沿海州を訪ねて 1990.9  
フォーラム 90's 1 (4)  
旧北区蝶類事情 1990.9  
やまが (142)  
シニチヨウの表面に出る表面の斑紋  
1990.11 蝶研フィールド 5 (11)  
大学の国際化推進 外国人教員終身雇用  
1990.11 日本経済新聞社  
「差別」「絶版」の経緯を追う 1990.11  
月刊サンサーラー (5)  
日本海に向かう側 ソ連沿海州をどう  
見るか 1990.11 車輪問題資料 (120)  
1990.11 同和はつむい通信 (41)  
Native English Speakers 1990.12  
SEIKA TIMES (6)  
差別の無根拠性をめぐって (養老行との  
対談) 1990.12  
河合おんぼろ (創刊号)  
小岩屋批判に答える 1990.12  
やまが (143)  
第一回日本蝶翅学会セミナー基調報告  
1990.12 やまが (143)  
チヨウの種の多様性と自然保護 (講義要  
旨) 1990.12 蝶と蛾 41 (4)  
多彩に群舞する沿海州のチヨウたち  
1991.1 科学朝日 51 (1)  
里山の自然とゴルフ場開発 1991.1

◆里山トラスティニース (3)  
Memor on the scientific cooperation  
between Japan and the People's Republic  
of China for research on Lepidoptera  
1991.1 Nota Lepidopterologica (2)  
ソ連邦沿海州 オーストラリア東海岸の  
類似 1991.2 論争 (4)  
大学での外国人雇用条件 1991.3  
フランス語とドイツ語の間 1991.3  
科学 61 (3)  
木野評論 (22)  
物資援助ではソ連邦社会を救えない  
1991.4 フォーラム 90's 2 (4)  
10人の賢者「宇宙、知性、生命」を語る  
(小松左京はかとの座談会) 1991.5  
オーク 10 (5)  
「地方分権」をソ連邦に対する関係の上  
で生かすには 1991.5  
フォーラム 90's 2 (5)  
方法としてのドイツ 1991.5  
「北方の脅威」の本質を考える 1991.5  
車輪問題資料 (126)  
Structuralist biology in Japan 1991.5  
京都精華大学紀要 No.1  
蝶研フィールド (5) 1991.5  
蝶研フィールド 6 (6)  
湾岸戦争をかえりみて 1991.6  
ライフサイエンス 18 (6)  
遺伝子工学をめぐるいくつかの問題  
1991.7 科学 61 (7)  
「オン・クライシス」(書評) 1991.7  
朝日ジャーナル 33 (29)  
「50年目」のウスイー地方チヨウ体験  
(1) 1991.7 やまが (146)  
A study of Delias rileyi from Irian Java,  
Indonesia (Lepidoptera:Pieridae)  
(Henk Van Mastriq+共著) 1991  
ENT. BER. AMST. 5 (1)  
スイスの遺伝子工学立法の動きに立会  
て 1991.8 科学・社会・人間 (37)  
クレンツォーフ・コレクションから  
1991.8 月刊むし (246)  
日本の蝶の衰亡と保護 Decline and  
Conservation of Butterflies in Japan.  
1989.12  
「日本産蝶類の衰亡と保護」第1集  
(浜米一・石井実栄共編) 1991  
日本蝶翅学会

◆田口環子 (人文学部助教授)  
日本図書館協会個人会員実態調査報告  
(共著) 1989.10 日本図書館協会  
フエニウムとアメリカ女性図書館職  
(単著) 1990.3 産経新聞 第260・261号  
司書課程卒業生調査 (単著) 1991.5  
京都精華大学紀要 No.1

◆植田 助 (美術学部教授)  
共生の環境生物学 (共著) 植田 助 小  
椋純一 1989.12 ちと書房  
脱原発共生の道 (単著) 1990.4 樹心社  
地球をつむぎない生き方の本 (編著)  
1990.8 岩波書店  
The Era of Coexistence with the Natural  
Environment  
— Beyond the Destruction of the Indus-

◆佐々木 弘 (美術学部教授)  
第16回創刊展 1989.10 京都美術館  
春季創刊展 1990.4 京都美術館  
第17回創刊展 1990.10 京都美術館  
春季創刊展 1991.4 京都美術館  
第4回日本画グループ声々展 (隔年開  
催) 1990.4 京都府立文化芸術会館  
◆末石富太郎 (人文学部教授)  
顔のみえるリサイクル社会の構築—廃  
棄物問題の解決のために— (単) 1991.1  
廃棄物管理に関する生活文化型都市基盤  
形成の一考察 (単) 1991.1  
都市広域化の環境影響とその管  
理シンポジウム論文集  
地球環境問題の意味するもの (単)  
1991.2 環境情報科学 Vol.20 No.1  
社会経済システムと環境問題のちえ方  
(単) 1991.4 週刊東洋経済臨時増刊  
都市生活と水 (単) 1991.8

◆佐川昌司 (美術学部講師)  
都市問題研究 Vol.43 No.8  
1991.11 石屋町ギャラリー

◆柴谷篤弘 (人文学部教授)  
「反差別論」1989.10 明石書店  
「科学批判から差別批判へ」1991.2  
明石書店  
『連邦沿海州で考えたこと』1991.5  
阿吽社

◆高等学術研究所とはなにか 1989.12  
科学 59 (12)  
Stability of arbitrary structures 1989.12  
Rivista di Biologia 82 (3-4)  
日本・中華人民共和国間チヨウガ目研究  
のための科学協力についての覚書  
1989.10 やまが (138)

◆東アシアを変える「ヒール」の環境を自  
主的に越えて開く (書評) 1990.1  
図書新聞 (67)  
第3世界への科学転移をどう見るか  
1990.1 クライシス (40)  
非暴力革命 1990.2 記録 (131)  
英語と日本語の間 1990.3  
木野評論 (21)  
唯論論・構造主義生物学・神学 1990.3  
哲学 (10)  
生物学から「反差別論」へ 1990.4  
記録 (133)

◆杉田元章先生を偲ぶ 1990.4 えず (43)  
進化の階層論 1990.5 生物学 42 (2)  
住民運動の実践と社会科学者の科学批  
判 (書評) 1990.5 科学朝日 50 (5)  
つづつての科学 1990.6  
検証「昭和の思想」III  
自然保護について最近生じた思考の転回  
1990.7 技術と人間 19 (7)  
私におけるアナキズムの経緯 1990.7  
自由意志 (17・18)  
日本における生態学と社会との界面  
1990.8 生物学 42 (3)  
大学国際化のための言語をどうするか  
1990.8 科学 60 (8)  
構造主義生物学とエコロジー 1990.9  
情況 1 (3)  
Tenure in Japan 1990.9  
Nature 347 (6289)  
ソ連沿海州に「生態系の多様性」を見る  
1990.9 毎日新聞  
沿海州を訪ねて 1990.9  
フォーラム 90's 1 (4)  
旧北区蝶類事情 1990.9  
やまが (142)  
シニチヨウの表面に出る表面の斑紋  
1990.11 蝶研フィールド 5 (11)  
大学の国際化推進 外国人教員終身雇用  
1990.11 日本経済新聞社  
「差別」「絶版」の経緯を追う 1990.11  
月刊サンサーラー (5)  
日本海に向かう側 ソ連沿海州をどう  
見るか 1990.11 車輪問題資料 (120)  
1990.11 同和はつむい通信 (41)  
Native English Speakers 1990.12  
SEIKA TIMES (6)  
差別の無根拠性をめぐって (養老行との  
対談) 1990.12  
河合おんぼろ (創刊号)  
小岩屋批判に答える 1990.12  
やまが (143)  
第一回日本蝶翅学会セミナー基調報告  
1990.12 やまが (143)  
チヨウの種の多様性と自然保護 (講義要  
旨) 1990.12 蝶と蛾 41 (4)  
多彩に群舞する沿海州のチヨウたち  
1991.1 科学朝日 51 (1)  
里山の自然とゴルフ場開発 1991.1

教職員研究活動 (アルファベット順)

trial Society—(単著) 1990.7  
J.Oriental Studies (東洋哲学研究所)  
科学技術社会における生活—生きる主  
体の自立的な喪失— 1990.11  
平和研究 (平和学会)  
◆鶴見貞子 (人文学部教授)  
「病」と「老い」—拡大鏡と望遠鏡— 1989.9  
「思想の科学」  
「文化的同一性—歴史的差異—政治的実  
践」H・ハルトマンの翻訳 1990.2  
「私の語り口体験—やまの側から」  
1990.7 「思想の科学」  
「後藤宏行教授追悼文集」(名  
古屋学院大学)  
「1930年代ふたつの旅—市河晴子と野  
上弥生子」1990.3 「木野評論」  
「ウィラ・キャザーの小説に見る家事の  
ついでかた」1991.5  
京都精華大学紀要 No.1  
「女性作家への旅—アイザック・ディネ  
ーヤン」1991.7 産経新聞  
「一隅の美—不揃いのたし」1991.10  
婦人交友  
◆鳥羽美花 (美術学部講師)  
明日をひらく日本新工芸展 1989.9  
箱根 彫刻の森美術館  
日展 1989.10 京都美術館  
京都工芸美術展 1990.2 京都文化博物館  
京展 1990.4 京都美術館  
日本新工芸展 1991.5 渋谷東急デパート  
日本新工芸展 1991.6 京都美術館  
◆潮 隆雄 (美術学部教授)  
作品集「建築空間を演出する「織の彩」」  
(単) 1991.4 京都書院  
第21回日展入選 1989.11 京都美術館  
第29回日本現代工芸美術展 1990.3-4  
京都美術館  
京展 (依幅) 1990.4 京都美術館  
第22回日展 1990.11 京都美術館  
第30回日本現代工芸美術展 1991.3-4  
京都美術館

◆佐々木 弘 (美術学部教授)  
第16回創刊展 1989.10 京都美術館  
春季創刊展 1990.4 京都美術館  
第17回創刊展 1990.10 京都美術館  
春季創刊展 1991.4 京都美術館  
第4回日本画グループ声々展 (隔年開  
催) 1990.4 京都府立文化芸術会館  
◆末石富太郎 (人文学部教授)  
顔のみえるリサイクル社会の構築—廃  
棄物問題の解決のために— (単) 1991.1  
廃棄物管理に関する生活文化型都市基盤  
形成の一考察 (単) 1991.1  
都市広域化の環境影響とその管  
理シンポジウム論文集  
地球環境問題の意味するもの (単)  
1991.2 環境情報科学 Vol.20 No.1  
社会経済システムと環境問題のちえ方  
(単) 1991.4 週刊東洋経済臨時増刊  
都市生活と水 (単) 1991.8

◆佐川昌司 (美術学部講師)  
都市問題研究 Vol.43 No.8  
1991.11 石屋町ギャラリー

◆柴谷篤弘 (人文学部教授)  
「反差別論」1989.10 明石書店  
「科学批判から差別批判へ」1991.2  
明石書店  
『連邦沿海州で考えたこと』1991.5  
阿吽社

◆高等学術研究所とはなにか 1989.12  
科学 59 (12)  
Stability of arbitrary structures 1989.12  
Rivista di Biologia 82 (3-4)  
日本・中華人民共和国間チヨウガ目研究  
のための科学協力についての覚書  
1989.10 やまが (138)

◆東アシアを変える「ヒール」の環境を自  
主的に越えて開く (書評) 1990.1  
図書新聞 (67)  
第3世界への科学転移をどう見るか  
1990.1 クライシス (40)  
非暴力革命 1990.2 記録 (131)  
英語と日本語の間 1990.3  
木野評論 (21)  
唯論論・構造主義生物学・神学 1990.3  
哲学 (10)  
生物学から「反差別論」へ 1990.4  
記録 (133)

◆杉田元章先生を偲ぶ 1990.4 えず (43)  
進化の階層論 1990.5 生物学 42 (2)  
住民運動の実践と社会科学者の科学批  
判 (書評) 1990.5 科学朝日 50 (5)  
つづつての科学 1990.6  
検証「昭和の思想」III  
自然保護について最近生じた思考の転回  
1990.7 技術と人間 19 (7)  
私におけるアナキズムの経緯 1990.7  
自由意志 (17・18)  
日本における生態学と社会との界面  
1990.8 生物学 42 (3)  
大学国際化のための言語をどうするか  
1990.8 科学 60 (8)  
構造主義生物学とエコロジー 1990.9  
情況 1 (3)  
Tenure in Japan 1990.9  
Nature 347 (6289)  
ソ連沿海州に「生態系の多様性」を見る  
1990.9 毎日新聞  
沿海州を訪ねて 1990.9  
フォーラム 90's 1 (4)  
旧北区蝶類事情 1990.9  
やまが (142)  
シニチヨウの表面に出る表面の斑紋  
1990.11 蝶研フィールド 5 (11)  
大学の国際化推進 外国人教員終身雇用  
1990.11 日本経済新聞社  
「差別」「絶版」の経緯を追う 1990.11  
月刊サンサーラー (5)  
日本海に向かう側 ソ連沿海州をどう  
見るか 1990.11 車輪問題資料 (120)  
1990.11 同和はつむい通信 (41)  
Native English Speakers 1990.12  
SEIKA TIMES (6)  
差別の無根拠性をめぐって (養老行との  
対談) 1990.12  
河合おんぼろ (創刊号)  
小岩屋批判に答える 1990.12  
やまが (143)  
第一回日本蝶翅学会セミナー基調報告  
1990.12 やまが (143)  
チヨウの種の多様性と自然保護 (講義要  
旨) 1990.12 蝶と蛾 41 (4)  
多彩に群舞する沿海州のチヨウたち  
1991.1 科学朝日 51 (1)  
里山の自然とゴルフ場開発 1991.1

◆京展 (審査員出品) 1991.4-5  
京都美術館  
個展 1990.2 高島屋京都店美術画廊  
個展 1990.6 静岡紺文ギャラリー  
個展 1990.7 東京新橋ギャラリー 21  
滋賀工芸会展 1990.9  
滋賀県立近代美術館  
現代工芸近畿会展 1990.12  
京都府文化芸術会館  
現代工芸作家展 1991.4  
大阪二越美術画廊  
現代工芸近畿会「30年を顧みる」展  
1991.4 京都府立文化博物館  
◆渡辺信喜 (美術学部教授)  
第21回日展「秋涼」  
1989.11 京都美術館  
第25回日展「秋日」  
1989.12 京都美術館  
第22回日展「鶏頭花」  
1990.11 京都美術館  
第26回日展「二月の頃」  
1990.12 京都美術館  
第7回横の会展「椿樹」  
1991.5 松屋百貨店  
第44回展覧会「五月」1991.6  
福井美術館  
第43回展覧会「九重桜」  
1990.5 池袋西武アートフォーラム  
第8回横の会展「野の梅」  
1991.3 京都大丸百貨店  
1991.4 京都美術館  
1991.4 福井美術館  
1991.5 池袋西武アートフォーラム  
第44回展覧会「五月」1991.6  
京都大丸百貨店  
◆渡辺昭五 (人文学部教授)  
日本伝説大系 全十七巻 (共著) 1970  
1991 みすずみ書房  
芸能文化辞典 (単著) 1990 名著出版  
◆山名伸生 (人文学部講師)  
和英対照日本美術用語辞典 1990.3  
東京美術  
「飛天と雲」1990.3 東京美術  
出版)  
「胡蝶相考—神月羅漢を中心に」1990.3



京都の未来像 建築展  
京都国立近代美術館



京都精華大学紀要  
1991・①  
1991・①(五月二十一日発行)

◆吉村昭市 (美術学部助教授)  
教育行政試験(1)教育の内的事項と外的事  
項—教育条理論の不条理— 1991.5  
京都精華大学紀要 No.1

**京 都 精 華 大 学**

◆木野評論 KINO REVIEW  
1991・②(五月二十一日発行)  
特集「壁」—The Wall—  
木野評論が新しく生まれ変わりました。  
残部多少あります。 定価五〇〇円(送料別)

◆京都精華大学紀要  
1991・①(五月二十一日発行)  
学術研究活動ますます盛ん。  
待望の創刊号発刊される。

教職員人事

**新任**

- 末石富太郎 (人文学部教授・地域環境論)
- 長岡 国人 (美術学部教授・版画)
- 小野リョウ (人文学部講師・社会調査法)
- 葉山 勉 (美術学部講師・建築)
- 以上一九九一年四月一日付
- 橋本 初子 (人文学部教授・日本文化史)
- 以上一九九一年四月一日付
- 大坪 一幸 (事務局経理課)
- 上田 修三 (事務局総務課)
- 有水 俊一 (事務局図書課)
- 力士 勝 (事務局施設課)
- 寺田 剛史 (事務局図書課)
- 鹿野 健一 (事務局図書課)
- 前田 達朗 (事務局学生課)
- 以上一九九一年四月一日付

**退職**

- 長谷川清 (人文学部教授)
- 以上一九九〇年九月三十日付
- 木村喜久二 (事務局用務)
- 以上一九九〇年十二月三十一日付
- 高原 威 (美術学部教授)
- 山本 理顕 (美術学部助教授)
- 大村 英子 (事務局寮母)
- 以上一九九一年三月三十日付

**学外研究員**

- 呉 宏明 (人文学部助教授)
- 一九九一年四月一日—一九九二  
年三月三十一日国内)
- 上野千鶴子 (人文学部助教授)
- 一九九一年四月一日—一九九二  
年三月三十一日ドイツ)
- 四間喜郎 (美術学部教授)
- 一九九〇年十月一日—一九九一  
年九月三十日イギリス)
- 黒崎 彰 (美術学部教授)
- 一九九一年九月一日—一九九二  
年十一月二十五日ルウェー)

同窓会の支部を作りましょう

去る6月23日(日)に同窓会役員と大学との  
懇談会がもたれました。  
同窓会は赤坂会長以下約10名の役員が、大  
学は笠原学長をはじめ理事及び事務局長他が  
出席しました。  
会合で話になりましたのは、①大学名称  
問題 ②校友会の状況 ③同窓会費徴収  
方法 ④同窓会ニュース発行 ⑤同窓会支部  
結成 ⑥その他でした。  
①大学名称問題については、大学から名称  
変更を考えたに至った経緯説明と私立大学が  
おかれている状況の説明がありました。これも  
ご意見が出されましたが、大筋において名  
称の変更は理解が示されました。特に精華大  
学高校出身の役員から、精華という名称に愛  
着があるが大学の将来のためには変更もやむ  
をえないという意見が出され、大学に対する  
思いの深さを胸を打たれました。  
④「同窓会ニュース」の発行については経  
費の問題があるが、当面は大学が発行して  
いる「木野通信」に同窓会専用の紙面をも  
うけることにし、将来の課題にしたいとい  
うことになりました。  
⑤同窓会支部結成については、現在、東京  
支部結成の準備をしているとの報告がありま  
した。  
東京在任の皆さん支部結成に是非とも協力  
をお願いします。  
笠原学長も皆さんにお目にかかれるのを大  
変楽しみにしておられます。  
卒業生も一万人を超えましたので東京だけ  
でなく地方にも支部を作らなくてはならない  
意見が出ました。  
例えば中国支部、四国支部、九州支部とい  
うように、中でも中国地方には卒業生が大変  
多いので、支部結成を考えたらいきたいとい  
う意見が出ました。  
卒業生の皆さん、同窓会の支部を作りませ  
んか。  
同窓会支部の結成をお考えの方は是非大学  
までご連絡下さい。  
(連絡先) 075-702-1512 9  
(郵送先) 075-702-1520 1  
久し振りに卒業生と会い話がはずみまし  
た。このような会合を年に一度はもちょうとを  
確認して終わらなりました。  
本当にいい会合でした。

# 同窓会・総会 懇親会への おさそい

## 第4回同窓会

日時  
1991年11月3日(日)

### ● 総会

午後1時30分より  
明窓館201教室

### ● 懇親会

午後2時30分より  
春秋館201教室

卒業生の皆様、如何お過ごしでしょうか。秋が深まるにつれ、木野の里が、なつかしく思い出されます。「木野会」も正式発足から、3年が過ぎ、活動も軌道にのりつつあります。大学側にも、全面的に支援していただける事になり、今後は、各支部設立など、全国に親睦の輪を広げて行きたい、思っております。さて、今年も、十一月三日、木野祭の日に、「同窓会総会」を開きます。その後、教職員の方々にも参加していただいて、「懇親会」も予定しております。軽食、飲物を用意しております(無料)ので、皆様の御参加をお待ちしております。久しぶりに、学生時代に返って、語り合いたまおう。

木野会 会長 赤坂 博  
代表理事 谷 真美子

### 人文学部で 地方入試を実施

一九九二年度入試日程決まる  
一九九二年度入試に大きな改革  
人文学部では公募推薦、一般入試に加えて、一般二次入試、という形で地方試験を実施します。  
三月三日 東京、名古屋、金沢、広島で行われるものです。  
加えて、美術学部では、公募推薦入試で改革が見られます。

推薦入試の評定三・〇以上、一浪までという規程が廃止になりました。従って評定値、卒業年度にかかわらず、出身高校の推薦書があれば受験できるようになりました。個性豊かな受験生が多数集まってくることを期待しています。



連日、超満員の受験生向けオープンキャンパス

## 1991年度 アセンブリー講演会

月・日 講師名 ● 演題

### 前期

- 4・18 河合隼雄
- 生と死のあいだ
- 5・2 グッドマン

### ● 国際語としての日本語

- 5・16 安斉育郎
- 科学と超能力

- 6・6 森 毅

### ● 大学の使いかた

- 6・20 佐藤忠男

### ● アジアの映画から何を学ぶか

### 後期

- 10・3 桂文我
- 話芸における間

- 10・17 石毛直道
- 鮮の歴史

- 11・7 河内厚郎
- 街は劇場 大衆という海への軌跡

- 11・21 井野瀬久美恵
- 子供達の大英帝国

—1898年の不良たち—

- 12・5 佐々木謙
- 推理小説と現代詩



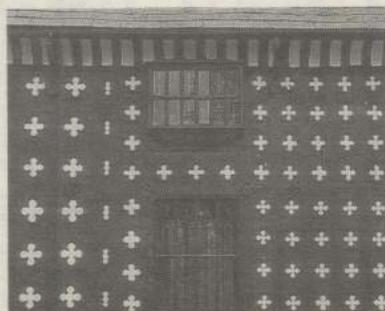
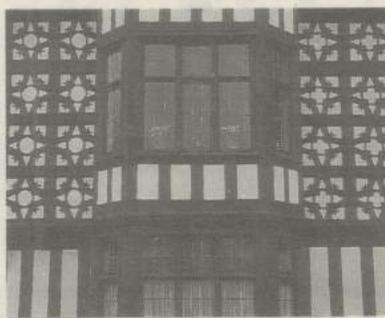
森 毅氏

## 滞英一年間をふり返って

武田 雄一

も多いうように見られましたが、そのういわけで、英国人学生も含めて、年合的にも巾が広く、その実技レベルも大変に高いものがありました。ウルバーハンプトン・ポリテクニクのアート部門では、映像関係に力を注いでいる様で、写真関係は勿論のこと、ビデオ、CG、ホログラフイ等の専門の工房とスタッフを抱え、その施設、設備も本学をはるかにしのぐ物があり、少々羨ましい思いました。

今回の取材では、イングランドの木造建築(特に、チェンバーハウス、ビルディング)の持つ簡潔な白と黒の点・線・面の構成の美しさを、その



らい、年中グリーンの芝におおわれた公園内の学生寮の一角にある教員用フラットで、夜毎、学生達や教員仲間と一緒に日本料理を肴にワインを酌み交わしたものです。英国人は勿論のこと、アジアからの留学生も、日本に対する関心、日本文化に対する興味は大変に強く、色々と質問をぶつけられるのですが、残念ながら語学力の不足で、充分にそれらに答えきれず、くやしい思いもしました。

一月にウルバーハンプトン・ポリテクニクのギャラリーで、七月には京都で写真展を開催、多数のご来場をいただきました。また、近々、大阪でも開催する予定であります。

(美術学部教授)

昨年、英国中西部に位置するウルバーハンプトン・ポリテクニクの間際交流プログラムの一環として、客員教授の招聘を受け、一年間、英国に滞在しておりました。V・C・D分野で、主としてフォトコミュニケーション・プロジェクトで授業をする一方、余暇を利用して、英国各地の撮影取材をしてきました。

教育機関についてご存知でしょうか。ポリテクニクを正確に定義するのは難しいのですが、大雑把に言えば、日本とちがって、大学の数が極端に少ない英国にあって、大学に匹敵する高等専門教育機関とでも考えればよいと思えます。

ウルバーハンプトン・ポリテクニクには、アート、ビジネス、法律、文学、化学、コンピューターサイエンス等の分野があります。アジアの国々をはじめ、ヨーロッパ、アメリカ……からの留学生も多く学んでおり、学内は大変インターナショナルな雰囲気でした。昨年度は、はじめて日本からの留学生(ナント!!)彼女は京都芸短の卒業生でした。)も在籍していました。ポリテクニクでも大学と同等の学位(D・A・M・A)が取得でき、特にアジア各国からの留学生には、英国内で取得する学位の持つ意味が大きいように感じられます。